

陸奥新報社賞

弘大COIに決定

岩木健診の短命県脱却へ研究 データ核に

陸奥新報社は、第45回陸奥新報社賞を弘前大学健康未来イノベーション研究機構(弘前大COI-NEXT)に贈ることを決めた。世界に類を見ない健康ビッグデータを集積する大規模合同住民健診「岩木健康増進プロジェクト」(岩木健診)を展開。20年以上にわたる蓄積データを核に、産学官民連携の拠点として、県民の健康寿命延伸や地域活性化につながる研究成果の創出と社会実装を実現している。

顕彰式は9月1日午前11時から、弘前パークホテルで行う。

弘前大は2005年、「短命県」からの脱却を目指し、弘前市などと共同で同市岩木地区の住民を対象にした岩木健診を開始。

検査項目は一般的な内科健診に加え、体力、精神面、睡眠、食事といった生活習慣、肌状態や運転機能など約3000項目に及ぶ。

頭からつま先まで網羅する健診データを核に、13年から国の研究支援事業「COI(センター・オブ・イノベーション)」、22年から「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の拠点として、全国の大学や上場企業などと連携し、データ分析、疾病の予兆・予防法確立といった多角的な研究を推進。弘前大発スタートアップ企業を創設し、データの利活用を促進している。

これまでの成果を基盤に新行動変容プログラム「QOL(生活の質)健診」を開発。今年1月には国の「地域中核・特色ある研究

開発。今年1月には国の「地域中核・特色ある研究



大学強化促進事業(J-IPEAKS)」の採択を受け、世界トップレベルのWell-being(ウェルビーイング)心身、社会的に健やかで幸せな状態)研究拠点の構築に向け動き出す。

第1回日本オープンイノベーション大賞の最高賞に

当たる内閣総理大臣賞など、国内外の賞を多数受けた。

村下公一機構長(副学長・教授、グローバルWell-being総合研究所副所長) 岩木地区をはじめ、地域住民の方々の協力によって世界が注目する健康ビッグデータとなり、研究拠点の発展につながった。そんな中で、津軽地域をけん引してきた方や団体をたたえる歴史ある賞の受賞は感慨深く、地域の皆さんの支えに改めて深く感謝申し上げる。

今後も貴重な研究資源を核に、地域の発展はもちろんのこと、国内、途上国の健康づくりに寄与していく。そして、弘前の地から世界が注目するウェルビーイング研究を進め、発信していく。

(稲葉智絵)

世界に類を見ない健康ビッグデータを核にした研究を進めている弘前大COI-NEXTの拠点施設と村下機構長